

懐良親王墓水路改修工事に伴う立会調査

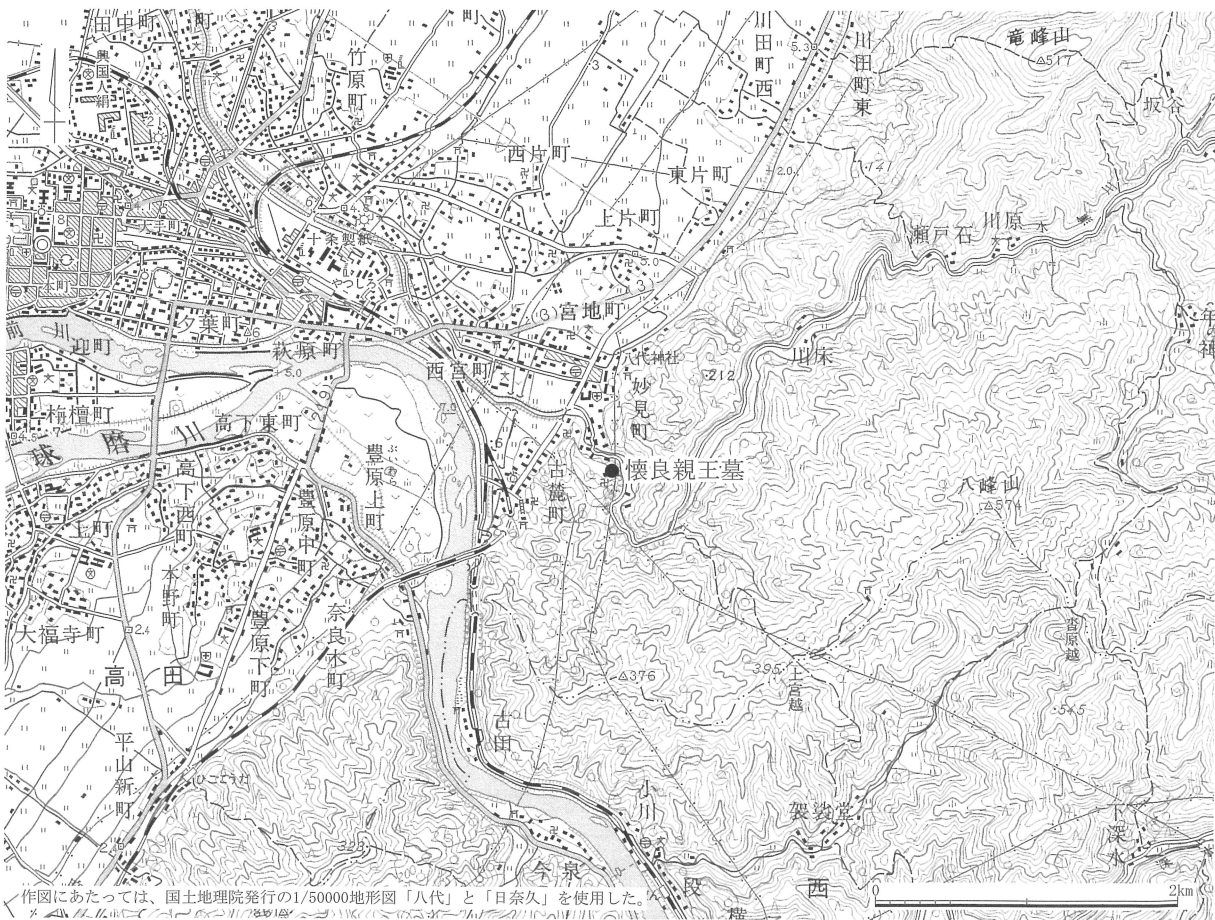
はじめに

懐良親王墓（以下、「当墓」という）は、熊本県八代市妙見町字中宮に所在する（第37図、図版45-1）。本報告は、水路改修工事にともなう立会調査にかんするものである。

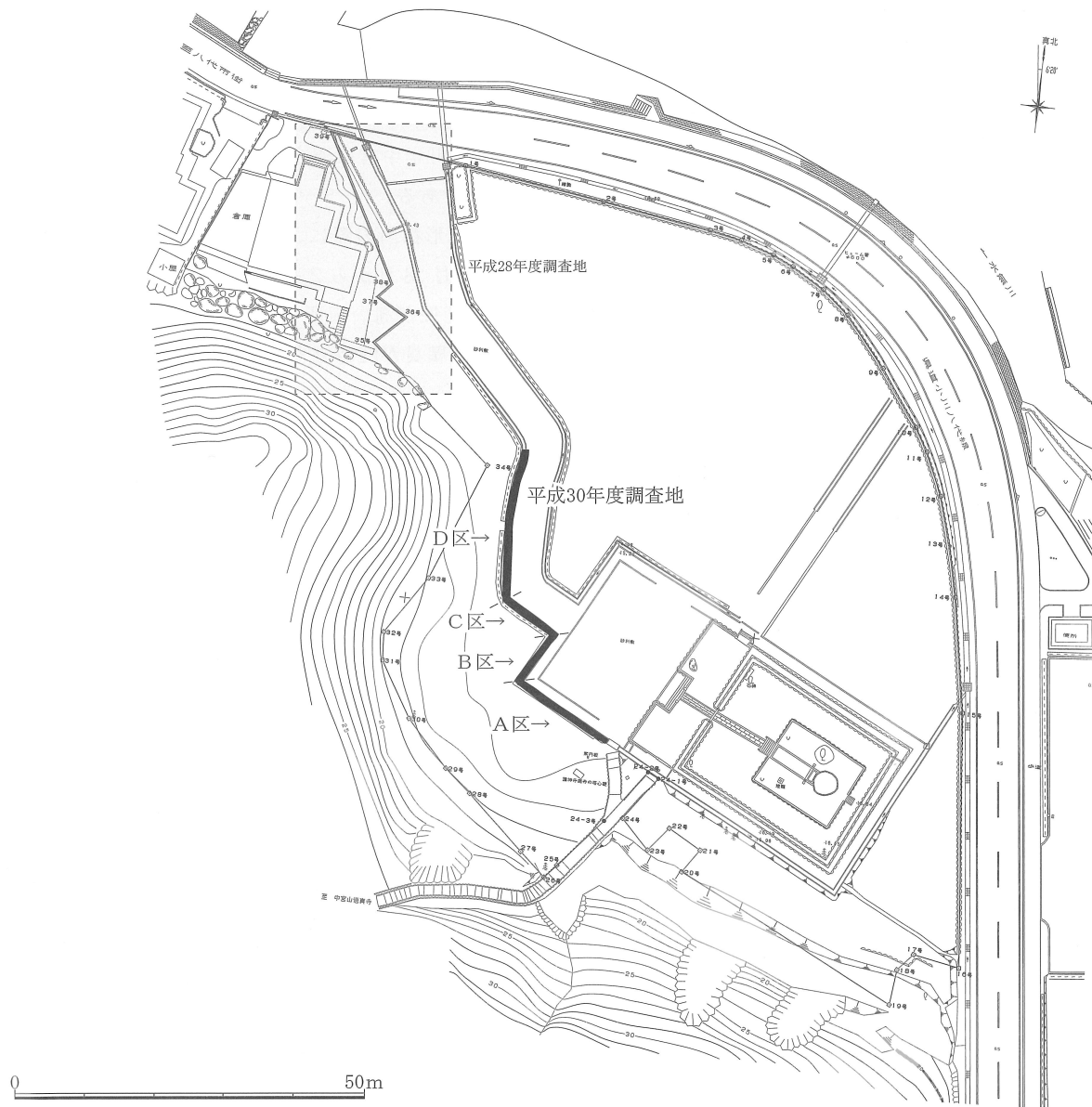
標記の立会調査は、平成30年度に実施した水路U型側溝掘形掘削の際に、施工地における遺構・遺物の有無を確認することを目的として、陵墓課職員が平成31年1月28日から2月1日までおこなった。立会調査は、当墓の改修予定水路のうち、遺構・遺物が残存する可能性が高い箇所（AからD区）で実施した（第38図）。なお、上記以外の工事期間中は、桃山陵墓監区事務所職員が随時立ち会った。

1 調査の状況

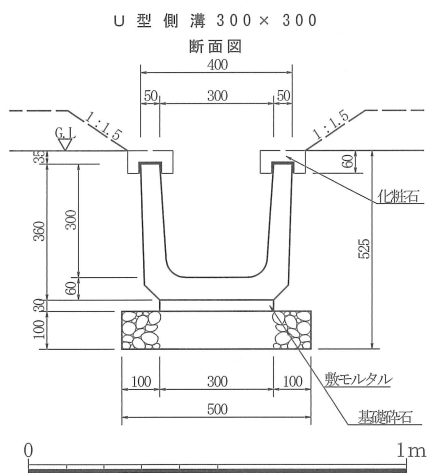
土層 立会調査地（AからD区、図版45-2）における土層は、表土（Ⅰ）、近代造成土（Ⅱ）、遺物包含層（Ⅲ）が確認された（第40図）。そのうち、D区（図版46-4・5）については、AからC区までと様相が大きく変わらず、壁面が曲線になっていたため、図面は作成しなかった。遺物包含層は、最上層の黄褐色で極細粒砂からなる「Ⅲ-1」、そこより下層の淡青緑色で粗砂からなる「Ⅲ-2」、同じくⅢ-1より下層の明黄褐色でシルトから極細粒砂からなる「Ⅲ-3」があり、それぞれ炭、土器片、瓦片等が出土している。このうちⅢ-2層は水分を多く含み、そこから木製の部材が1点出土した。空気に触れなかったがために、有機質が良好に残ったのだろう。



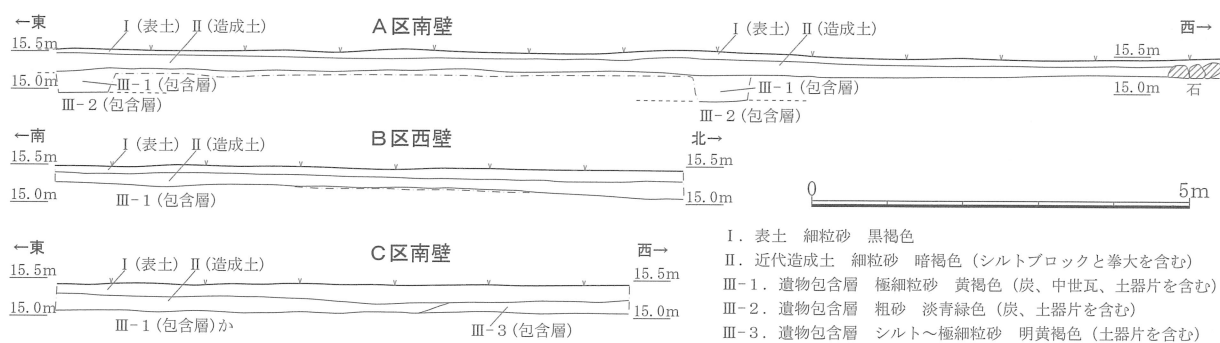
第37図 懐良親王墓 位置図(1/50,000,000)



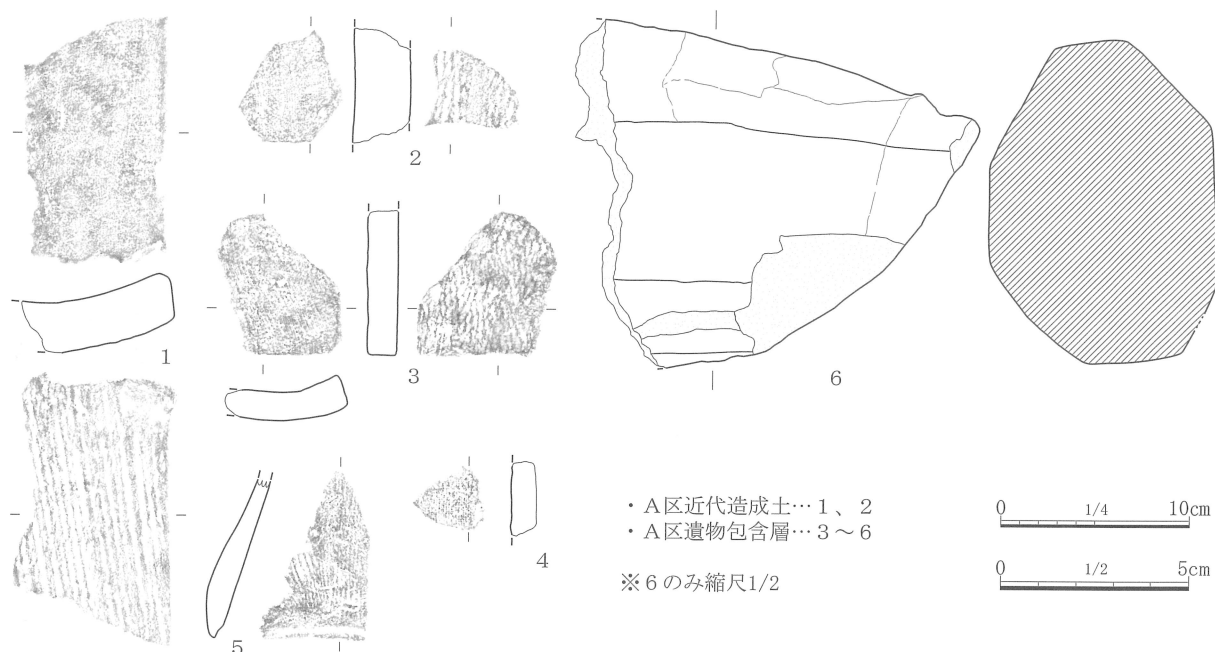
第38図 懐良親王墓 調査地位置図(1/1,000)



第39図 懐良親王墓 工事断面模式図(1/20)



第40図 懐良親王墓 調査地断面図(1/100)



第41図 懐良親王墓 出土遺物実測図(1/4, 1/2)

各地点の状況 AからD区まで、地表面より30cmほど掘削した段階では、ほぼ表面に遺物包含層(Ⅲ)が露出した状況であった。その後、A区内で東西に2箇所、部分的に地表面より60cmほど掘削をおこなった(図版46-6・7)。その結果、遺物包含層(Ⅲ)は土層で述べたとおり、3層にわけられることが明らかとなった。遺物包含層(Ⅲ)の掘削では、土器などが出土したが、遺構は検出されなかった。

2 遺物

立会調査で出土した遺物は8点で、整理用コンテナ1箱分である。内訳は、A区の近代造成土(Ⅱ)からの平瓦片2点、A区の遺物包含層(Ⅲ-1)からの平瓦片2点、土師器片2点、埴輪片1点、木製品1点である(第41図、図版46-8)。1から3は、いずれも凹面に布目痕と凸面に縄タタキ痕が残る平瓦片である。4は、凸面が磨滅していて、凹面の布目痕のみ残る。5は、円筒埴輪の底部である。外面に縦方向のハケメが残る。6は、木製品片である。断面八角形で、寺院建築にみられる架木端部の可能性がある。表面には、鋭利な金属刃物で面取り加工した痕跡がある。土師器片は、刃がない体部のみの小破片のため、図化できなかった。出土した遺物には、明らかに近世まで下るものがないことから、遺物包含層(Ⅲ)の下には、中世以前の遺構面が残っている可能性がある。

まとめ

今回の立会調査は、護神寺廃寺の範囲内であることをふまえ、遺構・遺物の出土に注意した。調査の結果、遺物包含層内の掘削にとどまったため、遺構は確認されなかったが、瓦など護神寺廃寺にかかわる遺物のほか、古墳に伴うであろう円筒埴輪片が出土した。ゆえに、調査地周辺では、今後も工事の際、遺物包含層やその下の遺構面に注意しておく必要がある。上述の通り、立会調査では遺構が確認されなかったため、工事については予定通り施工した（第 39 図）。（横田真吾）

註

- (1) 的場匠平・横田真吾「懐良親王墓外構柵その他整備工事に伴う立会調査」『書陵部紀要』第 69 号 [陵墓篇]、宮内庁書陵部、2018 年。



1 懷良親王墓（西から）



2 調査地全景（西から）



1 A区南壁（西から）



2 B区西壁（東から）



3 C区南壁（東から）



4 D区北壁（南東から）



5 D区北壁（北西から）



6 A区断割1（北から）



7 A区断割2（北から）



8 出土遺物